

令和5年度 全国学力・学習状況調査

調査結果と今後の取組について

～本校における調査結果（概要）～



旭川市立神楽中学校
令和5年(2023年) 10月2日

はじめに

本校では、確かな学力の育成に向けて、「令和5年度旭川市確かな学力育成プラン」に基づき、「学びを深める授業づくり」、「落ち着いた学級づくり」、「望ましい学習習慣づくり」の3つの指導の重点を踏まえた取組を推進するとともに、令和5年度神楽中学校学校経営方針における年度の指導の重点として、【主体的・対話的で深い学びによる確かな力を育む学習指導】を設定し、ICTの活用の工夫や、学び合いの活性化、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る指導の充実、家庭との連携による望ましい学習習慣や学び方を身につけさせる指導の徹底などに努めております。

このような中、本年7月に、国から令和5年度全国学力・学習状況調査結果の提供を受け、本調査の実施要領に示されている「調査の目的」及び「調査結果の取扱いに関する配慮事項」などを踏まえ、この度、本校の結果を取りまとめました。

調査結果の分析等に当たっては、本年7月に公表された国や北海道の調査結果に関する諸資料を参考にするとともに、生徒質問紙調査の質問項目について、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や自己有用感等、1人1台端末の活用など、学力に大きな影響を及ぼすと思われるカテゴリーに分類して整理し、回答状況や各教科の正答率との相関について明らかにするよう努めました。

本校の全教職員が本調査の結果について共有し、2学期以降も共通理解のもと、確かな学力の育成に向けた取組を一層充実してまいります。

令和5年10月

旭川市立神楽中学校長
辻 並 浩 樹

【 目 次 】

1	教科に関する調査	
■	国語	1
■	数学	2
■	英語	3
2	生徒質問紙調査	
■	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	4
■	個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学び	5
■	自己有用感等	5
■	集団（友人関係）や教員に関することと等	6
■	家庭学習	8
■	1人1台端末の活用	9
3	教科に関する調査結果と生徒質問紙調査結果の相関	10
4	分析結果と学力向上に向けた今後の取組	
■	分析結果のポイント	13
■	令和5年度2学期以降の取組（取組の方向性と具体策）	14

1 教科に関する調査

■ 国語

問題別集計結果

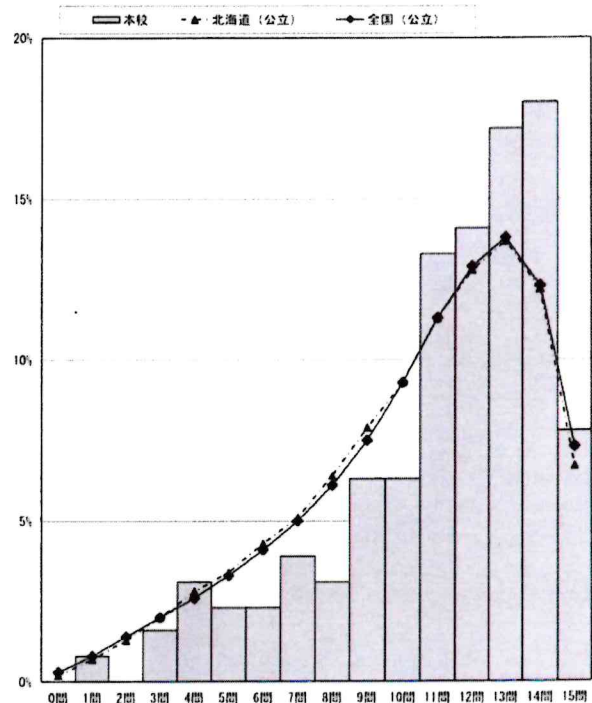
問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

※ は、正答率が全国平均以上の設問

分析結果概要

- 成果が見られた設問は、全15問中 14問でした。
- 課題が見られた設問と改善策
 - ・課題が見られた設問は、全15問中 1問で、具体的には、「3二 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」設問でした。
 - ・改善策
 - ①文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導する。
 - ②書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養う。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることや、iPadを活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養う。

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



■ 数学

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明することができるかどうかをみる
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区スタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる

※ は、正答率が全国平均以上の設問

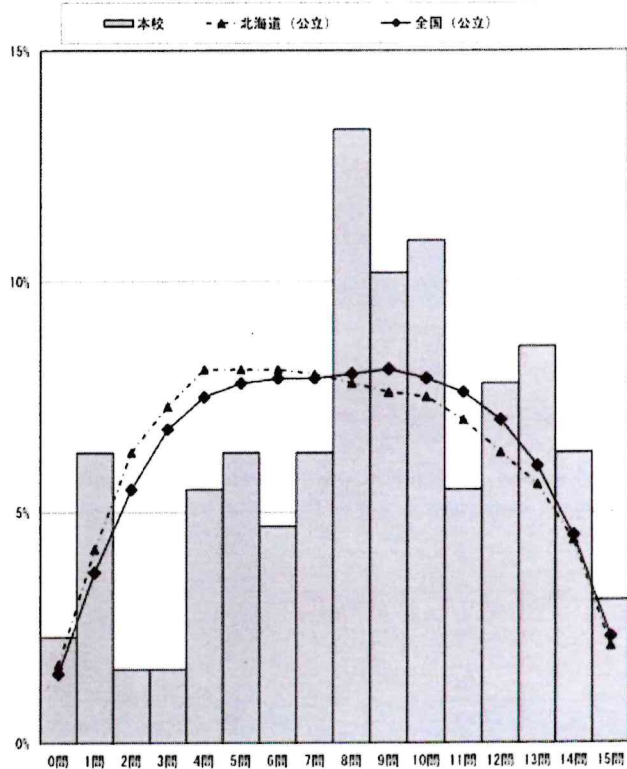
分析結果概要

- 成果が見られた設問は、全15問中 12問でした。
- 課題が見られた設問と改善策
課題が見られた設問は、全15問中 1問で、具体的には、「5 累積度数を理解しているかどうかをみる」設問でした。

・改善策

- ① データの分布の傾向を捉える活動を通して、累積度数の必要性和意味について理解できるように指導する。
- ② 不確定な事象についてデータに基づいて判断する活動を通して、目的に応じて累積度数を用いることができるように指導する。

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



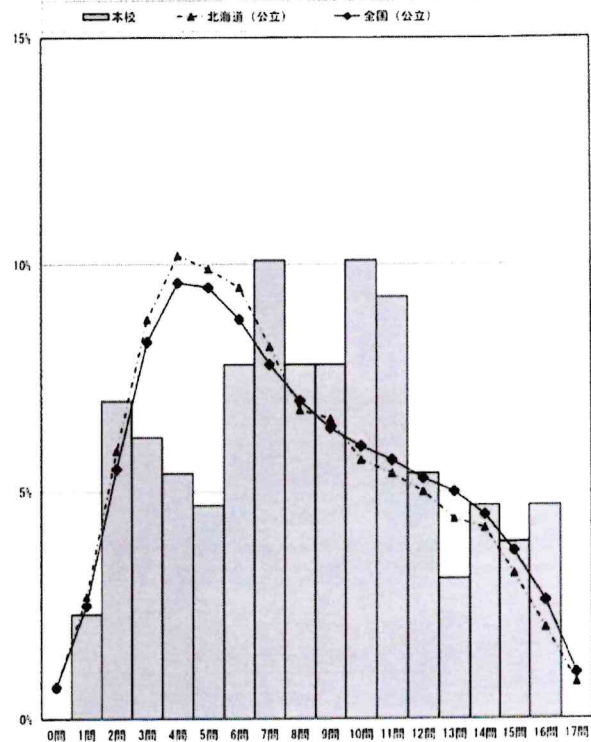
■ 英語

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
9 (1) (1)	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる
9 (1) (2)	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

※ は、正答率が全国平均以上の設問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数 縦軸: 割合)



分析結果概要

- 成果が見られた設問は、全17問中 13問でした。
- 課題が見られた設問と改善策
 - ・課題が見られた設問は、全17問中3問で、具体的には、「1(3) 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる」設問、「3 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる」設問、「7(2) 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる」設問でした。
 - ・改善策
 - ①学習者用デジタル教科書などを有効に活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるように指導する。
 - ②話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、自分が必要とする情報は何かを把握することができるよう指導する。
 - ③説明文について、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにして、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えるよう指導する。

2 生徒質問紙調査

■主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

① 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

(質問番号36)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ 5. その他

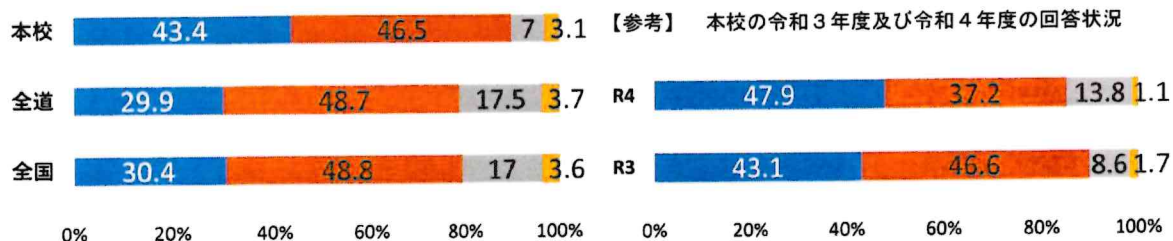


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて9.1ポイント高く、令和4年度と比べて11.9ポイント高い。

② 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

(質問番号37)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

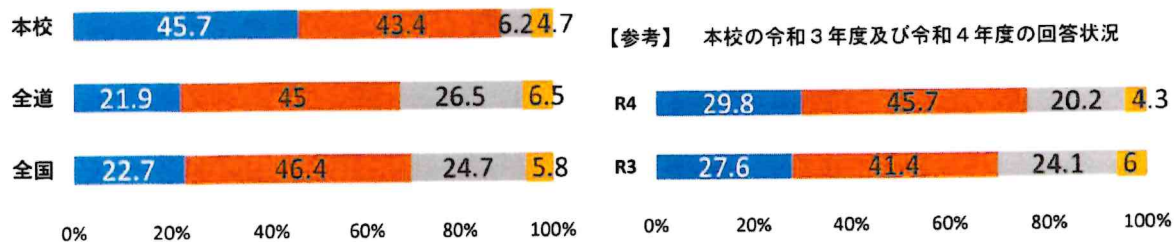


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて13.0ポイント高い。令和4年度と比べて4.5ポイント低いものの、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めて、肯定的な回答をしている生徒の割合は、令和4年度と比べて4.8ポイント高い。

③ 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

(質問番号38)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて23.0ポイント高く、令和4年度と比べて15.9ポイント高い。

④学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

(質問番号40)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ 5. その他



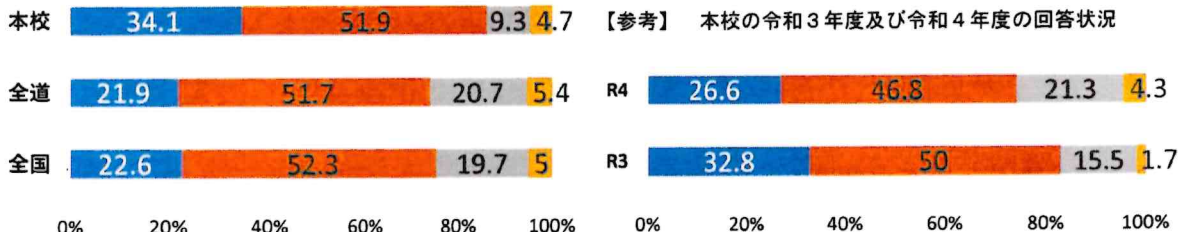
「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて9.9ポイント高い。令和3年度及び令和4年度も、全国と比べて10ポイント以上高く、特徴的な回答状況がうかがえる。

■ 個別最適な学び(個に応じた指導)・協働的な学び

⑤1,2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

(質問番号39)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて11.5ポイント高く、令和4年度と比べて7.5ポイント高い。

■ 自己有用感等

⑥自分には、よいところがあると思いますか

(質問番号4)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて17.1ポイント高く、令和4年度と比べて10.7ポイント高い。

⑦将来の夢や目標を持っていますか

(質問番号7)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

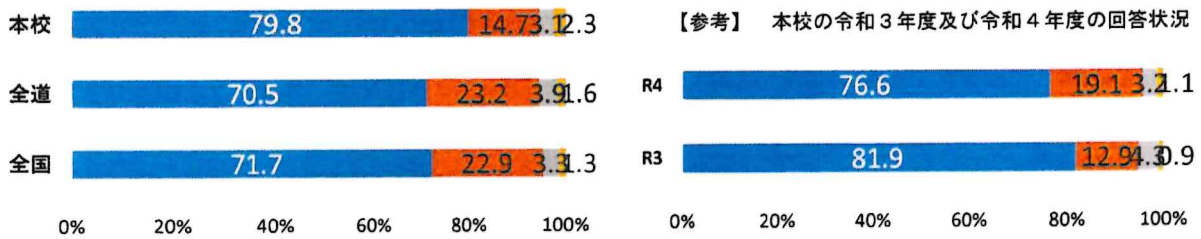


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて5.6ポイント高く、令和4年度と比べて4.6ポイント高い。

⑧人の役に立つ人間になりたいと思いますか

(質問番号11)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



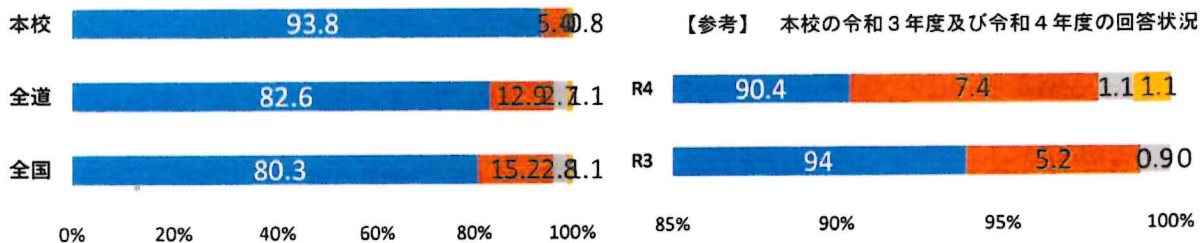
「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて8.1ポイント高く、令和4年度と比べて3.2ポイント高い。

■ 集団(友人関係)や教員に関すること等

⑨いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(質問番号9)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

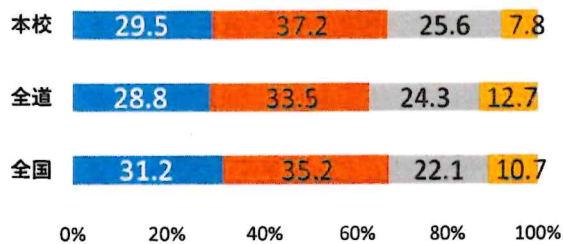


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて13.0ポイント高く、令和4年度と比べて3.4ポイント高い。令和3年度及び令和4年度も、全国と比べて8~12ポイント高く、特徴的な回答状況がうかがえる。

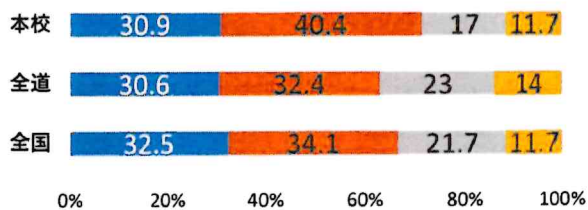
⑩困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

(質問番号10)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



【参考】 令和4年度の回答状況 ※R3は質問項目なし

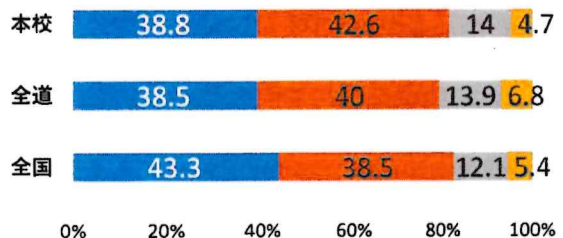


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて1.7ポイント低く、令和4年度と比べて1.4ポイント低い。令和3年度及び令和4年度も、わずかではあるが全国と比べて低く、特徴的な回答状況がうかがえる。

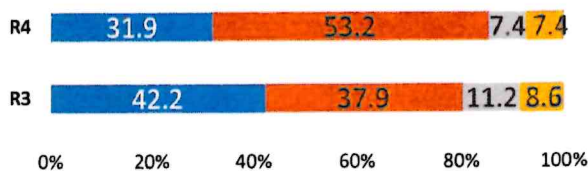
⑪学校に行くのは楽しいと思いますか

(質問番号12)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



【参考】 本校の令和3年度及び令和4年度の回答状況

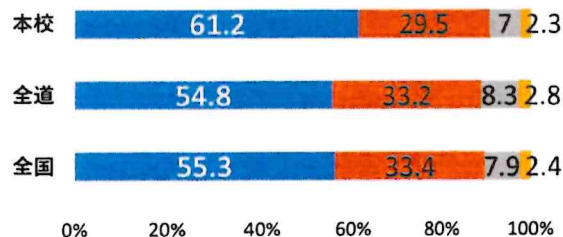


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて4.5ポイント低いものの、令和4年度と比べて6.9ポイント高い。「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて、令和4年度は13.9ポイント低く、令和3年度は1.1ポイント低くなっており、特徴的な回答状況がうかがえる。

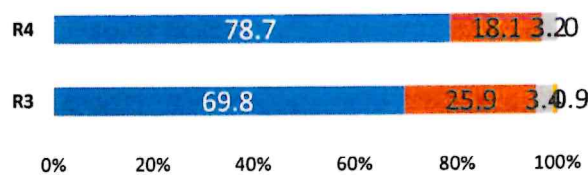
⑫友達関係に満足していますか

(質問番号14 ※R5新規質問項目)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



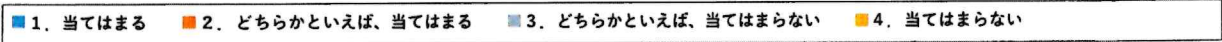
【参考】 類似質問項目（「友達と協力するのは楽しいと思いますか」）の本校の令和3年度及び令和4年度の回答状況



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて5.8ポイント高い。類似の質問項目「友達と協力するのは楽しいと思いますか」において、「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて、令和4年度は12.5ポイント高く、令和3年度は4.0ポイント高くなっており、特徴的な回答状況がうかがえる。

⑬先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

(質問番号5 ※R5新規質問項目)



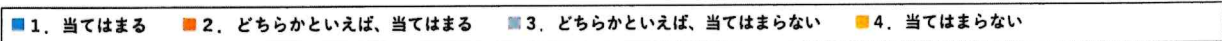
※令和3年度及び令和4年度には類似の質問項目なし



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて6.5ポイント高い。

⑭先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

(質問番号6 ※R5新規質問項目)



※令和3年度及び令和4年度には類似の質問項目なし

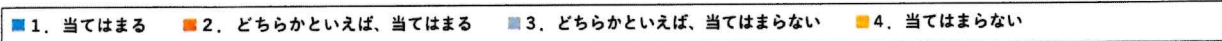


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて9.0ポイント高い。

■ 家庭学習

⑮家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

(質問番号16)



【参考】 本校の令和3年度及び令和4年度の回答状況

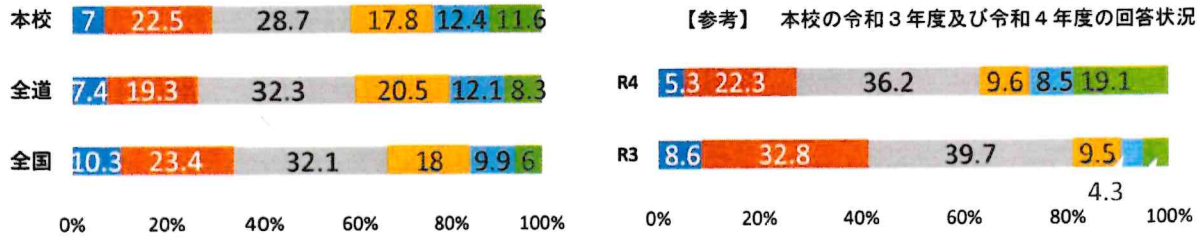


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて1.3ポイント低く、令和4年度と比べて4.1ポイント低い。「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて、令和4年度は8.2ポイント高く、令和3年度は2.7ポイント高かったものの、低下傾向にあることや、「4. 当てはまらない」と回答している生徒の割合が増加傾向にあり、特徴的な回答状況がうかがえる。

⑩学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

(質問番号17)

■ 1. 3時間以上 ■ 2. 2時間以上、3時間より少ない ■ 3. 1時間以上、2時間より少ない ■ 4. 30分以上、1時間より少ない ■ 5. 30分より少ない ■ 6.



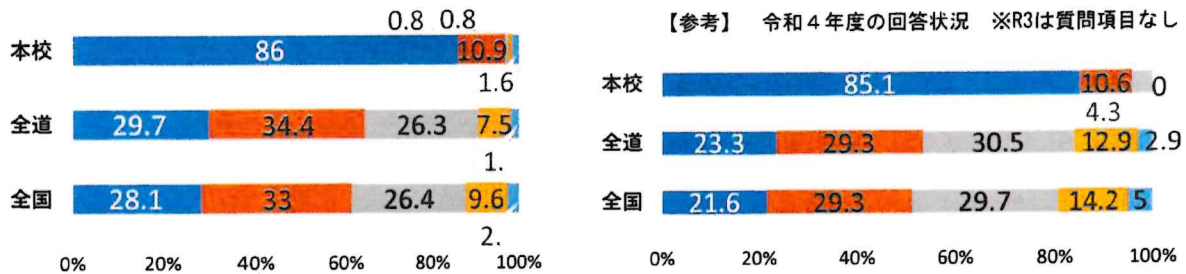
北海道教育委員会の「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える」では、中3の平日の家庭学習時間を100分以上としている。本質問項目において、「1. 3時間以上」又は「2. 2時間以上、3時間より少ない」と回答している生徒の割合は、全国と比べて4.2ポイント低く、令和4年度と比べて1.9ポイント高い。

■ 1人1台端末の活用

⑪1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

(質問番号33)

■ 1. ほぼ毎日 ■ 2. 週3回以上 ■ 3. 週1回以上 ■ 4. 月1回以上 ■ 5. 月1回未満

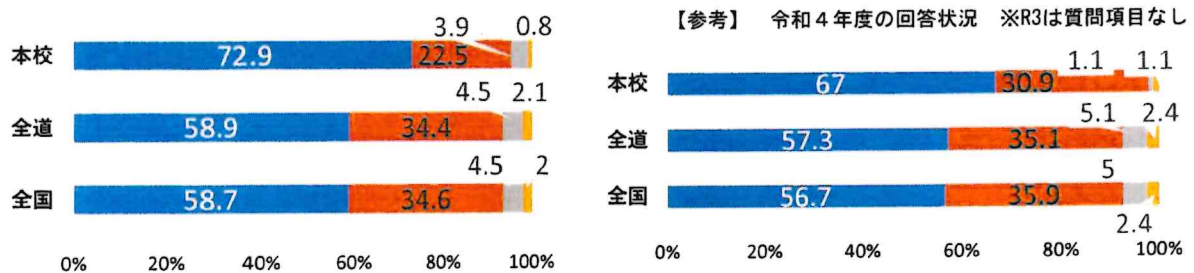


「1. ほぼ毎日」と回答している生徒の割合は、全国と比べて57.9ポイント高い。本質問項目において、「1. ほぼ毎日」又は「2. 週3回以上」と回答している生徒の割合は、令和4年度同様95ポイントを超えており、特徴的な回答状況がうかがえる。

⑫学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

(質問番号34)

■ 1. 役に立つと思う ■ 2. どちらかといえば、役に立つと思う ■ 3. どちらかといえば、役に立たないと思う ■ 4. 役に立たないと思う

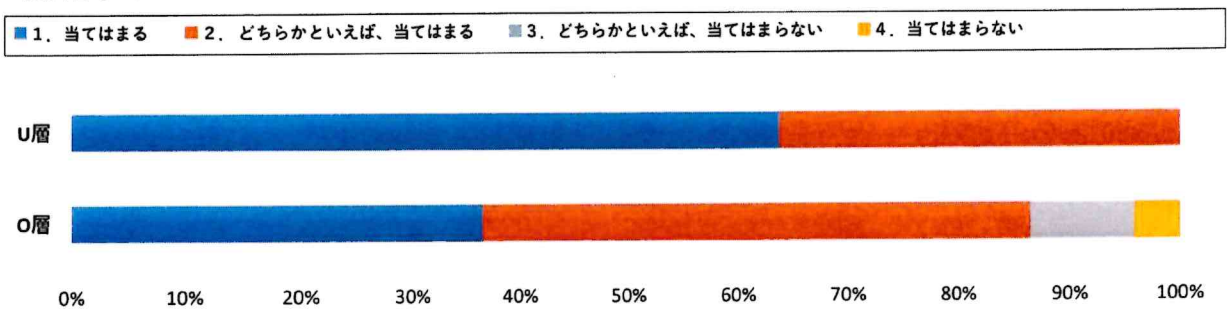


「1. 役に立つと思う」と回答している生徒の割合は、全国と比べて14.2ポイント高く、令和4年度と比べて5.9ポイント高い。令和4年度においても、「1役に立つと思う」と回答している生徒の割合は、全国と比べて10.3ポイント高く、特徴的な回答状況がうかがえる。

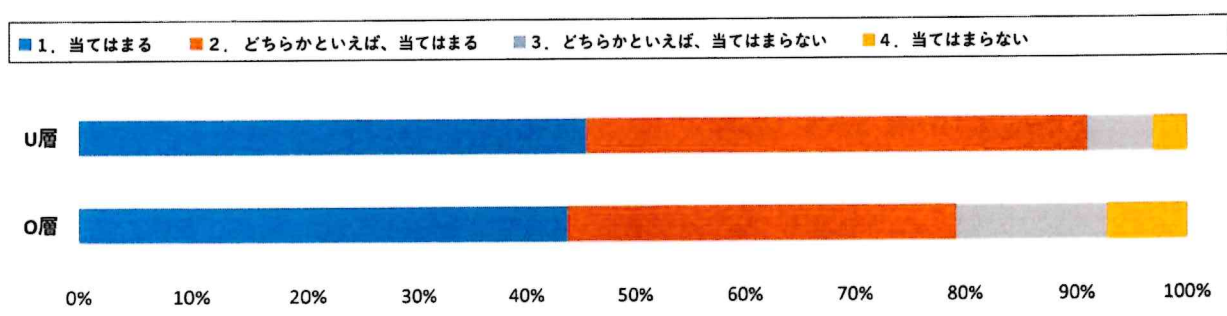
3 教科に関する調査結果と生徒質問紙調査結果の相関

教科に関する調査(国語・数学・英語)の2教科又は3教科全てにおいて、本校の「正答数の多い層」(上位25%程度)に含まれる生徒をU層(Upper)、それ以外の生徒をO層(Others)とし、それぞれの生徒質問紙調査の結果を比較した。比較の対象とする質問項目については、「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合が、全国と比べて10ポイント以上高いものや全国と比べて低いものなど、特徴的な回答状況がうかがえる質問項目とした。

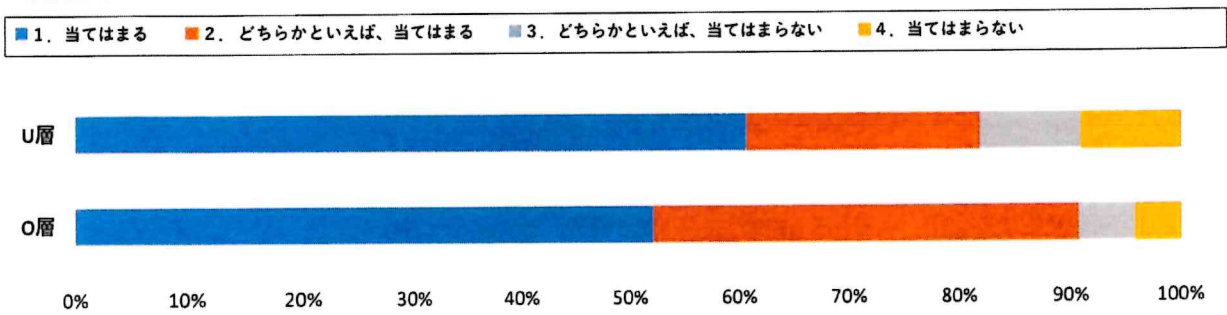
②1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
(質問番号37)



④学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
(質問番号40)

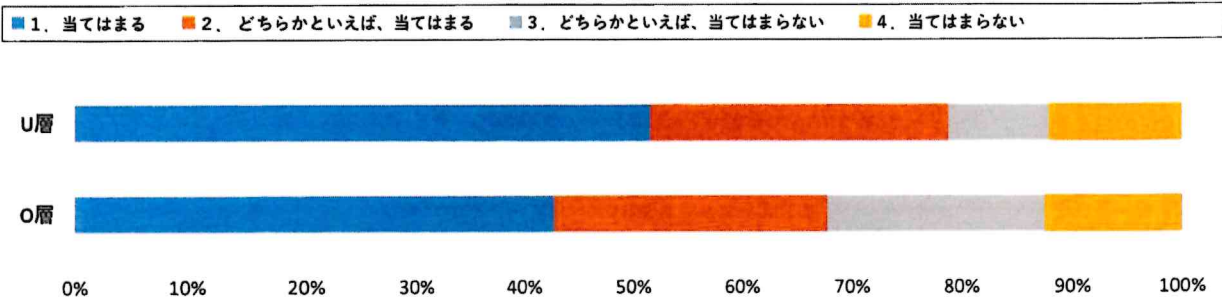


⑥自分には、よいところがあると思いますか
(質問番号4)



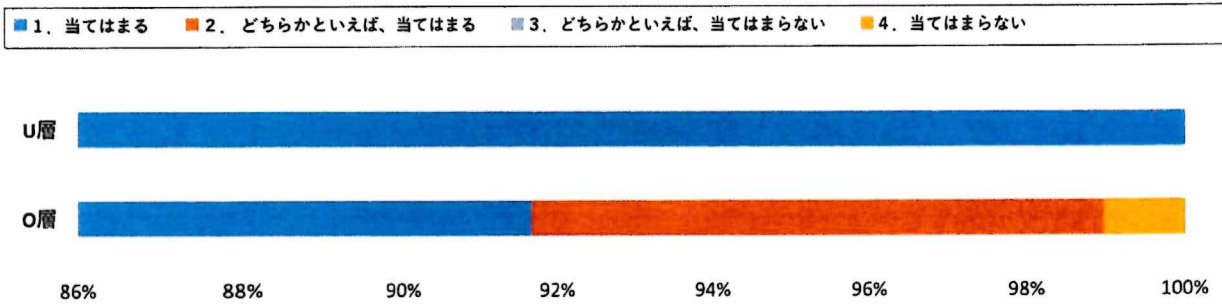
⑦将来の夢や目標を持っていますか

(質問番号7)



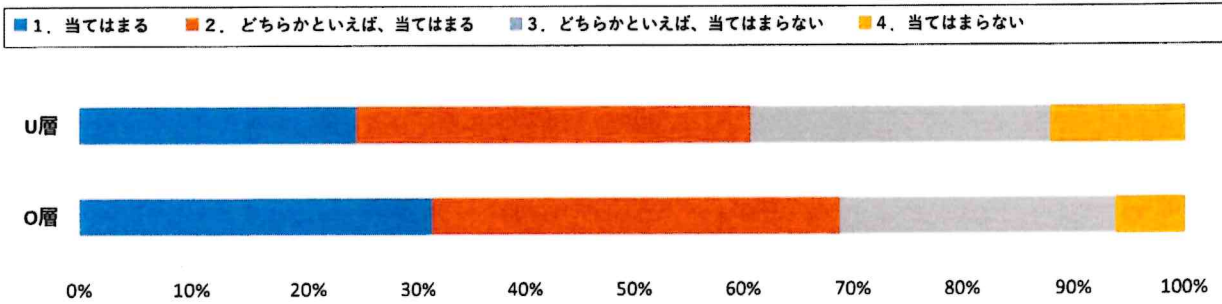
⑨いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(質問番号9)



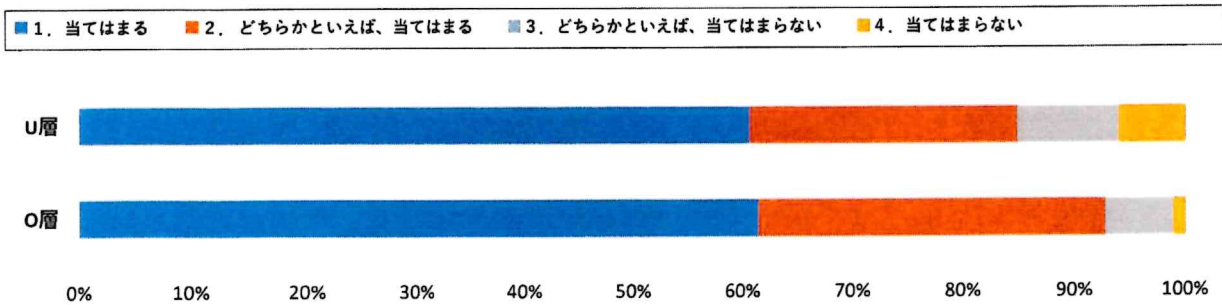
⑩困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

(質問番号10)



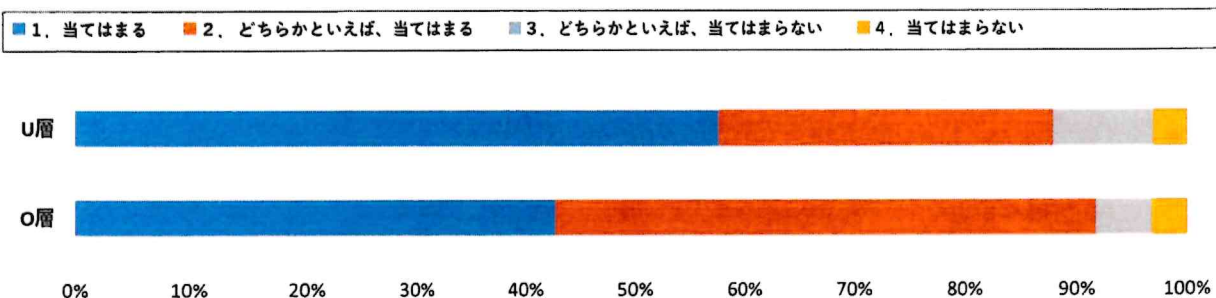
⑫友達関係に満足していますか

(質問番号14 ※R5新規質問項目)



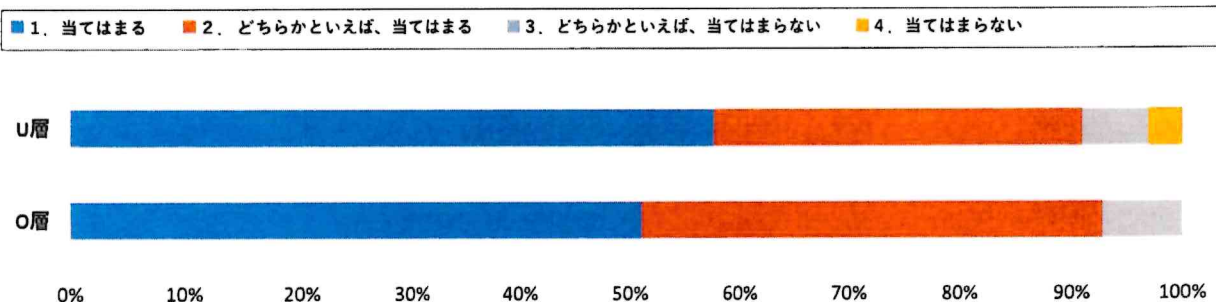
⑬先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

(質問番号5 ※R5新規質問項目)



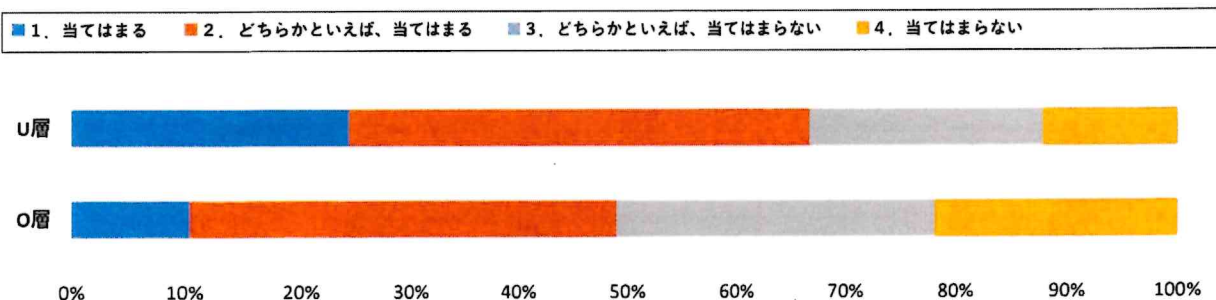
⑭先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

(質問番号6 ※R5新規質問項目)



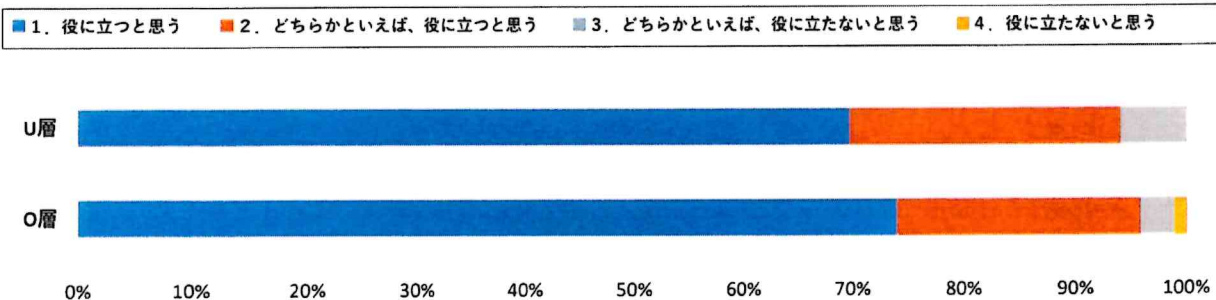
⑮家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

(質問番号16)



⑯学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

(質問番号34)



4 分析結果と学力向上に向けた今後の取組

■分析結果のポイント

- 教科に関する調査においては、いずれの教科とも多くの設問の平均正答率が全国・全道を上回っている。また、各設問ごとの無回答率についても、国語は15問中14問、数学は15問中9問、英語は17問中16問が、全国・全道の状況よりも低くなっている。こうしたことから、各教科において、学年段階にふさわしい知識・技能やそれらを活用する力などをはぐくむ授業が実践されてきたことに加えて、調査においては、生徒は最後まで粘り強く取り組むことができた。
- 昨年度までと同様、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されており、生徒もそうした授業が行われていると認識している。
- 質問番号37及び40のクロス集計結果から、授業の中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んだ生徒は、各教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 昨年度までと同様、個別最適な学び(個に応じた指導)・協働的な学びの取組が実施されており、生徒もそうした授業が行われていると認識している。
- 質問番号4の結果から、学年生徒全体として自己有用感が高い傾向が見られる。同質問項目のクロス集計結果からは、自己有用感と正答率の相関が見られないことから、正答率の高低にかかわらず(学習面での達成状況にかかわらず)、生徒は自分にはよいところがあると自己認識していることがうかがえる。
 - ※ 国の分析結果においては、「主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びに関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問の間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性がある」とされていることに留意する必要がある。
- 質問番号7のクロス集計結果から、将来の夢や目標を持っている生徒は、各教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 昨年度までと同様、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒が全国・全道と比べて高いことや、友達関係に満足している生徒の割合が高い傾向が見られることから、望ましい集団(友人関係)づくりに向けた取組の成果がうかがえる。
- 質問番号9のクロス集計結果から、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒は、各教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 質問番号5及び6の結果から、学年生徒全体として教員との関係が良好である傾向が見られる。同質問項目のクロス集計結果からは、教員との関係と正答率の相関が見られないことから、正答率の高低にかかわらず(学習面での達成状況にかかわらず)、教員がよいところを認めてくれる、分かるまで教えてくれると感じていることがうかがえる。
 - ※ 国の分析結果においては、「先生がよいところ認めてくれる」と感じている児童生徒ほど、「自分にはよいところがあると思う」割合が高いとされていることに留意する必要がある。
- 質問番号16及び17の結果から、学年生徒全体として家庭学習の習慣が身に付いていない傾向が見られる。一方で、質問番号16のクロス集計結果から、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 質問番号33及び34の結果から、昨年度までと同様、授業における1人1台端末の活用が進められているとともに、学習におけるICTの有効性を感じている生徒の割合が全国・全道と比べて高い傾向が見られることから、校内研修を核としたICTを効果的に活用した授業改善に向けた取組の成果がうかがえる。
 - ※ 国の分析結果においては、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している傾向が見られる」、「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修会が設けられている学校の方が、ICT機器の活用が進んでいる傾向が見られた」とされていることに留意する必要がある。

■令和5年度2学期以降の取組（取組の方向性と具体策）

1 主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 全教科等の授業において、生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができるようにすることや、考えを深めたり、広げたりする学級やグループでの話し合い活動を充実する。

参考データ① 参照

- 今年度の教務チーム・研修系の計画に基づき、研究副主題「ICTを効率的・効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの工夫」の実現に向けた各教科部会の授業実践を進める。

2 個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びの充実

- 基礎基本、応用から選択できるなど生徒一人一人に応じた学習課題や活動を工夫する。
- 生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と、情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫する。

3 生徒の自己有用感の向上とキャリア教育の推進

- 生徒一人一人の良い点や可能性を見つけほめる。

参考データ② 参照

- 自分の興味関心や適性など、生徒が自分に向き合うとともに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を充実する。

参考データ③ 参照

4 望ましい学級・学年集団づくりと教職員と生徒との信頼関係の構築

- いじめを許さない意識の醸成といじめ対策の各種取組を徹底し、生徒同士の望ましい人間関係づくりを支援する。

参考データ④ 参照

- 気になる生徒への声かけなどのチャンス相談の日常化と学級担任以外の教職員による相談活動を実施する。

5 基本的な生活習慣・学習習慣の確立

- 平日に学習以外でメディアに触れる時間を *2時間以内 にすることなど、小学校とも連携して、生活習慣確立に向けた支援を行う。

参考データ⑤ 参照

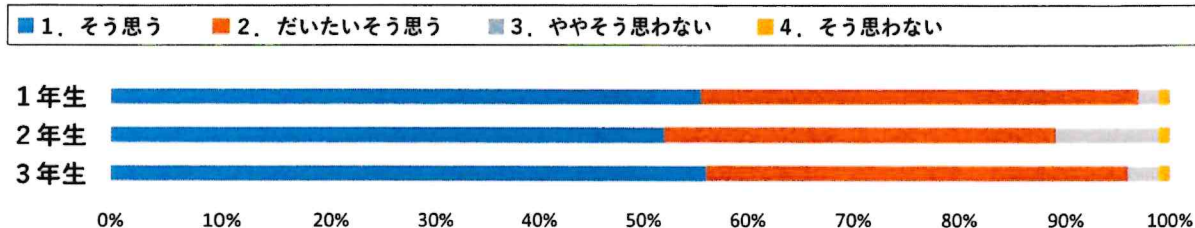
- 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える。

参考データ⑥ 参照

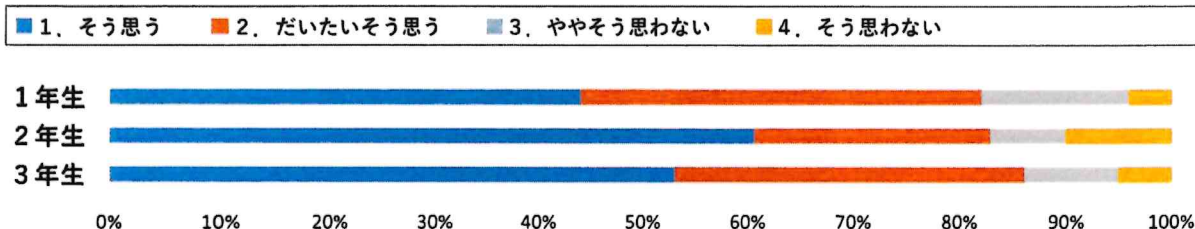
※北海道教育委員会作成リーフレット「時間の目安を決めて、子どもの生活リズムを整える」では、中学生の平日に学習以外でメディアに触れる時間を2時間以内としています。

【参考データ】 ※第1回神中生アンケート(R5.7実施)結果

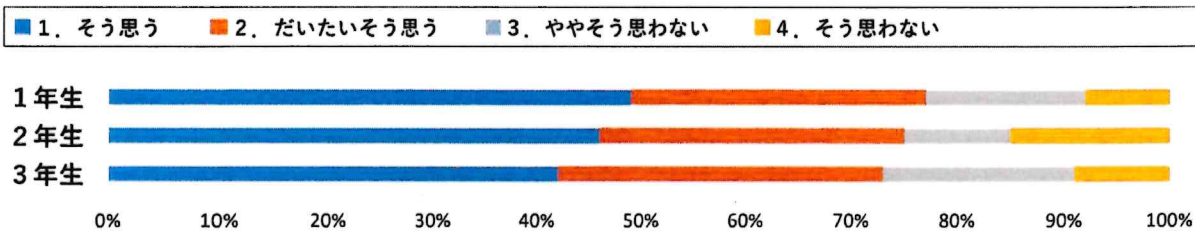
① 授業には意欲的に取り組んでいますか。



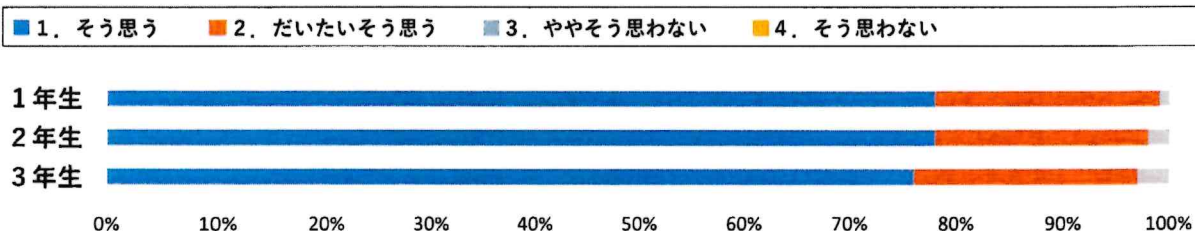
② 自分には、よいところがあると思いますか。



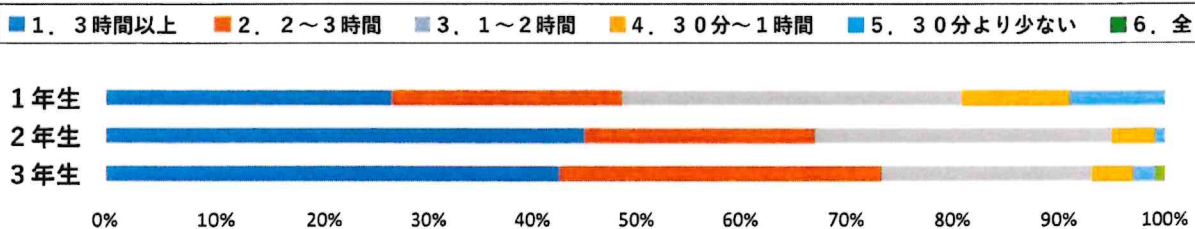
③ 将来の夢や目標を持っていますか。



④ 友達と、仲良く過ごすことができますか。



⑤ 平日のインターネットの利用時間(娯楽目的)とゲームの時間の合計



⑥ 家庭学習(宿題以外)に進んで取り組んでいますか。

